言霊～映画館の幻影～

言霊紡ぐ教師

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
言霊～映画館の幻影～

【Ｎコード】
Ｎ３１６９Ｓ

【作者名】
言霊紡ぐ教師

【あらすじ】
言霊をテーマに、さまざまなことを、連作していきます。更新はきわめて遅いですが、楽しんでいただければ幸いです。

序章（前書き）

はじめまして。
文学は初めて挑戦します。

序章

枝垂桜の薄桃色の花弁が、風に舞う風景が、今は凄く物悲しく感じる。

４月２５日。

俺、柊（ひいらぎ）龍櫻（りゅうおう）、の爺さんが、天に還ってから４９日が経っていた。

今日は４９日法要。

午前中のうちに、親族一同が爺さんの家に集合し、そして会食を含めた簡単な法要を行っている。それも、午後の早い段階で終わる。

正直な話、一族が一同に会して、亡くなった爺さんを弔う気持ちで溢れているのなら、俺は最後まで法要の場にいただろうが、爺さんが資産家であったがゆえに、今は、遺産分けで亡くなった人間のことをあげつらっている人間たちしかいない場に、居ようとも思わなかった。

だから、母屋のほかに離れを二棟、そして、蔵が一つある、広い爺さんの家の敷地の中、俺が幼いころからずっと好きだった場所に、俺は一人で佇んでいた。

蔵のそば、日当たりのいい場所にどっしりと根を下ろした枝垂桜の真下。

夏になれば柔らかな下草が生えて、最高に気持ちのいい昼寝の場所になる大切な場所。

今は、満開の花を咲かせて、風に揺れている。

時に、花弁を風に舞わせながら。

…りゅう…

風に、爺さんの言葉が重なる。

…蔵に入るといい…

ふぅ。

やっぱり、聞こえてくるんだな。

…りゅう。蔵で「ことだま」を拾うんだ…

俺は、簡単に言えば、草木の囁きを言葉として認識したり、死者の魂の言葉を聴いたりと、あまり他人にはいえない感覚を備えている。それは、常に聞こえるものでもなく、聞こうと思って聞こえるものではないから、俺自身、たまにそういう感覚があることを忘れそうになる。

ただ、今回は、１００％聞こえるだろうとそう確信していた。

それは、この場所…枝垂桜の下…が俺にとっても、爺さんにとっても大切な場所だからだ。

まぁ、蔵に入れと言われるとは思ってなかったけれど。

「わかったよ、爺さん。見せたいものがあるんだろ？」

生前の爺さんが、

「お前が大学に合格したら、蔵に入ってもいいぞ。何でも見てもかまわんぞ。」

と、無邪気に笑っていた顔が鮮明に思い出せる。

大学合格の通知をもらったその日。

そんな大切な日に、突然爺さんは亡くなった。
でも、見ていたんだろうな。

「合格祝い、見せてもらうよ、爺さん。」

俺は、なぜか鍵が壊れていた2階建ての大きな蔵に足を踏み入れた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3169s/

言霊～映画館の幻影～

2011年10月8日19時20分発行